

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

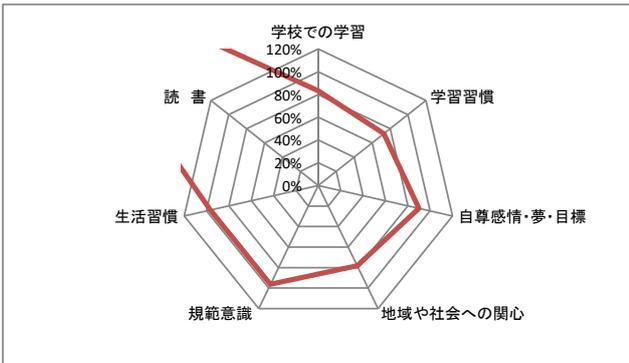
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全体的には全国平均より下回っているが、領域別に見ると、「読むこと」の正答率は全国より上回っている。また、問題形式で見た場合、「記述式」においては、やや全国平均を上回っている。	下回っている。
算数	全体的に全国平均を下回っているが、特に図形領域においての正答率が低くなっている。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか、の設問に対して、全国平均を大きく上回っている。
- ・学校の授業以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか、の設問に対して、全国平均を大きく下回っている。その他の学習習慣の項目でも全国平均を下回っている。
- ・自尊感情・夢・目標に関する設問に対して、全国平均を下回っている。
- ・その他、生活習慣等についても、肯定的な回答率が全国平均を下回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・学力向上・学力定着のための特設時間「竹末タイム」の実施(朝の15分間、音読、視写、国語・算数のスキル学習等)
- ・授業のユニバーサルデザイン化(焦点化・視覚化・共有化)を図る。
- ・優れたノートを掲示し、効果的なノートづくりの意識を高める。
- ・コグトレを行ない、個々の認知機能の不十分な点を強化する。
- ・主題研究において、図形領域を中心にした授業研究を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の強化を図ることが、本校の課題である。そこで、令和元年度より、中学校区の学校と連携し中学校の定期考査に合わせて「小中連携過程学習強化週間」を設けた。期間中は、「家庭学習強化週間がんばりカード」を活用し、生活全般を振り返らせるようにした。この期間は特に家庭と連携して家庭学習を推進するようにした。
- ・しかし、令和元年、2年度は増えたものの、今年度の結果を見ると、定着していないと言わざるを得ない状態である。今後とも今の取り組みは継続させていくと同時に、より家庭学習の強化を図る新たな取り組みも考えていきたい。
- ・家庭との連携を密にし、全家庭に伝えたいことについては、都度、学級通信などで伝えるようにする。